

希少種のヒメボタルが生息し続けることができる相生山緑地計画を求める件

請願者 天白区

相生山緑地を考える市民の会

共同代表 福井 清

要 旨

ここ相生山緑地は、東尾張丘陵地の一面を占め、名古屋市の東に位置するかつては約130ヘクタールの広さを有し、今では全域に希少種のヒメボタルが生息する特異な生態系に恵まれた森である。様々な生きものが複雑に関わりあい、命の宝庫となっている。

この相生山緑地は、都市開発から緑地を守る政策により都市計画緑地として位置づけられた。今では都市に残された貴重な大きなまとまりのある森となり、身近な自然として、市民に親しまれている。畑を耕す里山の風景が残り、子どもたちが雑木林に遊び、静けさ・木漏れ日・鳥たちのさえずりの中を多くの人が四季を通じて散策し、自然を享受している。

5月中頃から6月初めの夜にはヒメボタルの乱舞が、広葉樹林、竹林、谷筋、雑草地等、緑地のほぼ全域で見られ、ヒメボタルの生息地として全国的に知られている。ヒメボタルの生息には、森の植生・地形・土壌、そして暗さやまとまった広さ等の環境が影響するとされている。

生物多様性が脅かされている今、この相生山に関して名古屋市は相生山緑地計画を進めている。名古屋市の環境基本計画、みどりの基本計画等で、自然環境の重要性がうたわれており、その具現化が課題となっているが、オンリーワンとしてのこの相生山緑地から学ぶ姿勢で計画することが必要である。生きものたちの生息地の消失と劣化を招かないように、相生山緑地が分断されることなく、全体がひとつの大きな生態系を育む森として計画され、さらには、他の緑地との広域のネットワークをも視野に入れた緑地計画が求められている。

全域に生息するヒメボタルの自然環境の特性を調査・研究し、この緑地ならではの特性をつかみ、その環境を保全していく方法をベースにした緑地計画を進めてほしい。このことが、相生山緑地全体の生態系を保全することとなり、生物多様性につながる。生きものたちにとっては、多くの緑地が分断され減少していく中で、この相生山は、残された他の緑地を繋げる貴重な拠点として存在し、緑のネットワークをつくることによって、より豊かな自然環境となることだろう。

ついては、次の事項の実現をお願いする。

- 1 希少種のヒメボタルが生息し続けることができる相生山緑地計画とすること。

(参 考)

令和5年8月29日 保 留